

さみしい夜の句会報 第117号 (2023. 5. 14-2023. 5. 21)

- ◆ 参加者：ゆう、奥かすみ、*see*、しまねこくん、何となく短歌、温
(温)、みさきゆう、*syusu*、むくみんママ、梓川葉、西脇祥貴、たろ
りずむ、雪の空*SOON*、東ころろ、元さん、おかもとかも、高良俊礼、
入竹野乃子、ツユクサ、*MAS*H*、西沢葉火、鷺沼くぬぎ、花野玖
しろとも、*Tono*、*BornSlippy*(モンモン)、厩乃ハコ、リコ、石川聡
雪夜慧星、目下 昊、上崎、のんのん、宮井いずみ、凧ちひろ、佐竹
紫円、小沢史、雪上牡丹餅、水の眠り、まつりべきん、雷らい)、流
天 *hyuutoppa* 突波、さー、みおうつたかみ、とるぼーる、森砂季、
球、秋日子の眩き、月硝子、千春、涼閑、ひなとと、*Take*、厩乃ハ
コ、こたろう、*KBird*、此糸むら咲、上峰子、鴨川ねぎ、弍定住佳
みくたん、石原とつき、*RyuSen*、菊池洋勝、片羽 *anju*、雲雀、金薔苳、
とし、紺野水辺、はゆき咲くら、吾亦紅、輪井ゆう、ゆりのはな、
とわさき芽ぐみ、白石ボビー、ちゆんすけ、人見式一、凧ちひろ、沫
茶金魚、元さん、宮坂菱哲、森内詩紋、シマダ、月波与生(八五名)
- ◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)
膝裏が産気づいてるのは秘密 小沢史
扉絵に泡だけ描いてある 不定 おかもとかも
領域を鴨がかすめて休校す 抹茶金魚
キスはまだなれど海ほほつき鳴らす *syusu*
樹の中はみんなやさしいホログラム おかもとかも
乱丁で殖やす竹取物語 西脇祥貴
エアコンが去年の夏を吐き出して さー
カルダモン噛んだ爽快感ひとり 雷
しがらみが切れて陽気なジャンク品 *RyuSen*
町内へ報じる海女の解禁日 菊池洋勝
標的にされているのに照れるなよ 西沢葉火

逃げ道のほうから馬がやってくる 上崎

駆け落ちのお供はいつも季語辞典 おかもともかも

客を引く玄関先のラベンダー ことらう

ハンガーとハンガーがぶつかって、過去 上崎

おもたせのレモンピールよ永遠に 上崎

方舟は怪獣乗せて精いっぱい おかもともかも

こっそりと他人の庭に種をまく ツユクサ

「いいね」しかすることがない夏の月 みおうたかふみ

雨音で運転席を聴く 雷

弁解はフライドチキンほどの罪 宮井いずみ

年甲斐が有るか無いのか水中花 しまねこくん

薄暑来て悪魔祓いの封を切る 石川聡

若葉キラキラつてんで、おいたかまつてちゃん 石川聡

雷鳴がくれた味なミドルネーム 西脇祥貴

薔薇が咲く期間限定喫茶店 屑乃ハコ

大王と呼ばれる前の蛍鳥賊 しまねこくん

青嵐アメ車はみ出す右カーブ Tomo

Ⓜが結べない 西沢葉火

合言葉いつもこころに棺桶を いたう

葉巻型腕時計式御意見番 おかもともかも

生れたての小鹿壊れかけのRadio たろりずむ

ブラウスを汚してうつくしい逢瀬 東こころ

貯め込んだアイスの当たり棒捨てる むくみんママ

紫陽花が授業を受ける深い海 千春

失せものは春を跨いで空の果て 涼閑

キイチゴの白昼酸しドライ寒し 白石ポピー

おしりから蚯蚓が出れば健康です M&A&S&H

宝くじ買って飛ぶのは明日にする 鷺沼くぬぎ

親も子も甘えてばかり四十雀 花野玖

金平糖前歯で囓る緑立つ しろとも

淡々と磨り減る僕を置いてゆく夜 リコ
手火花が消える夜空に星語り 雪夜彗星
霧の森に沈んでゆくは浮かぶはずの君の笑み 日下昊
解体がやけに上手なお母さん のんのん
肉汁で飛行機飛ばす 雪上牡丹餅
斎場の時計の針で型を抜く まつりべきん
松の実の頭蓋のごとく笠ひらく 流天
テントムシダマシの方に生まれたよ hyuntoppa
ヌン活は五重のスタンド、ブルース・リー 森砂季
錆びついたベアリングを回す仲人 球
首筋に兆す薔薇の芽の固さ 上峰子
ときめきの亡骸はもう捨てたかい 鴨川ねぎ
人知れず夜を纏いて忍び足 弑定住佳
理不尽な 出来事すべて 川柳に詠む みくたん
天道虫だましまされ幸せよ 片羽雲雀
口角がバカになったよ薬指 金菱枕
芍薬や空だけ見れば大丈夫 紺野水辺
五月雨と カエルの声は 友達だ とし
うまくいく気がする初夏の見せる夢 輪井ゆう
長袖の理由訊かれて夏の空 ゆりのはなこ
知らん顔されてさみしい花苺 ちゆんすけ
インディゴブルー夏の日空の色 人見弑一
木苺を含んで送るエールかな こたろう
壊れても病んでも走れサラリーマン 宮坂愛哲

ユニセックストイレに穴を忘れる 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

最後までブルーノートのスケールの大人の顔して愛せなかつた みさきゆう

さびしさはどこまで聴いてもサビのないメロディみたいな
分からなさたち とわさき芽ぐみ

二のゾロ目予定日まえに便意かと思えば産まれ午後三時の
子 水の眠り

土砂降りの街のなかではお互いの境い目なんかグレーに溶
けた 水の眠り

線路はまいにち絡まつたり逆立ちしたりを夢見ている

石川聡

起き出した朝のカフェでは○活の鼓動とカップが序曲奏で
る 奥かすみ

今までの 軌跡辿りて 振り返る胸に宿すは 成長の証 ゆ
う

日常と非日常をつなぐ新幹線 旅の終わりは何処からだろ
う saku

いつの日か迎えに来ていただけますかそう思うほど気力失
せ果て なんとなく短歌

無理せんでいいよと肩を抱き寄せる貴方は人に気を使います
ぎ 梓川葉

君が言う恋する中にいる人が私ではないと気付く瞬間 雪
の空

一人きり迷路のような人ごみのひかり始めた街に飛び込む
元さん

パフェ食べて美味しかったの「た」のところ辿り着いては
一人侘しき 入竹野乃子

もしも願いが叶うなら来世は君に膝をつき愛を誓うよ
Born Slippy

かんづめの看病既に四日経ち咳き込む娘の寝顔見守る 風
ちひろ

重やかに広がる雲の先に立ちペトリコールは痛みとともに
佐竹紫田

君のこと声も仕草も忘れてる覚えてるのは誕生日だけ
とるばどーる
酔を知る花鳥風月愛しいと思える日また我に来るのか 秋
日子の眩き
足搔いても足搔いても誰にも等しく二十四時間過ぎるだけ
ひなとと。

夜明け前稜線白くなり始め今日一日の憂鬱の始まり Take
ひとり寝のベッドの中に潜り込む何かが噛んだお尻が痒い

KB1:ib

誰かが果てた夜明けの星よあなたが泣かずに眠れますよう

此糸むら咲

大玉を送るといった夏が来るスイカ睨んでメロンを愛す
はゆさく

一日を塗りつぶしたくて描いた薔薇 はみ出た今日が紡ぐ
不眠症 吾亦紅

変化する街へ静かに憤る 踏みつけるなよ白いマスクを
森内詩紋

5

◆詩

眩しい青空。

悲しい時に限って晴れる。

どこまで

神様に見放されてるのだろうか。(温(ミ))

◆作品評から

暗い箱 血まみれシャドーボクシング Tatsuo Kanase

く(舐めて癒す) ボクサーの傷わかき傷 羨みゆけば

深夜の市電 寺山修司(作者の表現したい世界

美少女になりたいわたし美少女に美少女にああなんもして
ない 春町

義務感で出勤してる義務感で家路に向かう義務感で寝る
何となく短歌

～言葉を繰り返す面白さ。(月波与生)

太つてる時に限つて夏が来る たろりずむ

～ホントにそうだよな」と笑つてしまった。もうサリ
みたいな服でごまかすのはやめようとココロに誓いまし
う。(月波与生)

おもたせのレモンピールよ永遠に 上崎

～「おもたせ」という言葉、完全に忘れていました。い
いですね。(まつりへきん)